

# 卒業演習(日本史5)－II

科目ナンバリング SEM-410  
選択必修 2単位

宮川 麻紀

## 1. 授業の概要(ねらい)

古代史の様々なテーマに関する解説を用意するので、その中から各自一つ選択し、挙げられている史料を載せながら内容を発表する。どのような史料を根拠に、どのような説を述べているか読解し、その要約と自身の考えを発表する。史料も辞書で調べ、書き下し文や現代語訳を述べられるようにする。

発表者以外も、あらかじめ各回の発表で用いる解説を読んでおき、授業内で発表者に対して質問や意見を出す。

## 2. 授業の到達目標

- ①古代史研究のテーマや研究動向を習得する。
- ②解説や論文を読解できるようになる。
- ③史料や専門用語を辞書や文献で調べられる。
- ④研究上の様々な論点について、自身の考えを述べられる。

## 3. 成績評価の方法および基準

- (1)各回の授業での報告と討論への参加50%(到達目標①～③)
- (2)学期末に提出するレポート(報告内容を発展させ、論文形式にして4000字以上で執筆する)50%(到達目標①～④)

## 4. 教科書・参考文献

### 参考文献

村岡薫ほか 『再検証 史料が語る新事実 書き換えられる日本史』 三一書房、2011年  
歴史科学協議会編 『歴史の「常識」を読む』 東京大学出版会、2015年

## 5. 準備学修の内容

- ・受講者は、各回の報告で扱う解説を事前に読み、理解する。
- ・発表者は解説の要旨をまとめ、史料をレジユメに貼り読解する。語句は『大漢和辞典』『日本国語大事典』『国史大辞典』をひいて調べる。
- ・発表内容に関する他の書籍や論文も読み、レポートを作成する。

## 6. その他履修上の注意事項

卒業論文で日本古代を希望する人は、3年次に履修すること。この演習への参加を通して、卒業論文のテーマを探し出し、卒業論文執筆に必要な史料や論文の読解力を身につけてほしい。また、日頃から関心のあるテーマを探すとともに、各発表の討論にも参加してほしい。

## 7. 授業内容

- |        |  |
|--------|--|
| 【第1回】  | オリエンテーション<br>・演習の進め方の説明<br>・発表者の決定、発表の仕方の解説    |
| 【第2回】  | 課題の作業<br>・一つの解説文を読み、要旨を作る。<br>・引用されている史料を輪読する。 |
| 【第3回】  | 発表と討論①<br>・発表者による解説文の要旨・説明の発表、参加者による討議         |
| 【第4回】  | 発表と討論②<br>・発表者による解説文の要旨・説明の発表、参加者による討議         |
| 【第5回】  | 発表と討論③<br>・発表者による解説文の要旨・説明の発表、参加者による討議         |
| 【第6回】  | 発表と討論④<br>・発表者による解説文の要旨・説明の発表、参加者による討議         |
| 【第7回】  | 発表と討論⑤<br>・発表者による解説文の要旨・説明の発表、参加者による討議         |
| 【第8回】  | 発表と討論⑥<br>・発表者による解説文の要旨・説明の発表、参加者による討議         |
| 【第9回】  | 内容を発展させた発表と討論①<br>・解説文に関連する諸説の発表、参加者による討議      |
| 【第10回】 | 内容を発展させた発表と討論②<br>・解説文に関連する諸説の発表、参加者による討議      |
| 【第11回】 | 内容を発展させた発表と討論③<br>・解説文に関連する諸説の発表、参加者による討議      |
| 【第12回】 | 内容を発展させた発表と討論④<br>・解説文に関連する諸説の発表、参加者による討議      |
| 【第13回】 | 内容を発展させた発表と討論⑤<br>・解説文に関連する諸説の発表、参加者による討議      |
| 【第14回】 | 内容を発展させた発表と討論⑥<br>・解説文に関連する諸説の発表、参加者による討議      |
| 【第15回】 | 課題の作業<br>・一つの解説文を読み、要旨を作る。<br>・引用されている史料を輪読する。 |